



泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつづやき
 秋深し…食欲の秋・芸術の秋！
 そして、読書の秋！あなたを
 応援する図書館です！
 コスモス



新着・お薦め図書

泗水図書館
 文士の友情 安岡章太郎 著
 無垢の領域 桜木紫乃 著
 死神の浮力 伊坂幸太郎 著
 王になろうとした男 伊東 潤 著
 時間に支配されない人生 ジョン・キム 著
 水俣な人 塩田武史 著
 この羽だれの羽？ おおたぐろまり 作・絵

中央公民館図書室
 最高の人生に変わる天才 100 の名言 真山知幸 著
 一番やさしい株の教科書 竹内弘樹 監修
 ビタミンCは人類を救う！！ 氷上 治 監修
 閻魔の世直し 西條奈加 著
 おばけのジョージとさわがしいゆうれい ロバート・ブライト 作
 ぎょうれつのできるケーキやさん ふくざわゆみこ 作

七城公民館図書室
 ようこそ、わが家へ 池井戸 潤 著
 ドレスよりハウス 室井 滋 著
 山田県立山田小学校1～2 山田マチ 著
 にん・にん・じんのにんじんじゃ うえだしげこ 著

旭志公民館図書室
 かすていら さだまさし 著
 東大式 タネなし手品 東京大学奇術愛好会 監修
 だいすき！ さこももみ 著
 すいぞくかんのみんなの1日 松橋利光 著

テンペスト 上・下 池上永一



旭志中3年 満田佳子さん

ある嵐の中で一人の女の子が生まれました。名前は真鶴。子どもの頃から勉強が好きで15カ国の外国語を話せました。

ある日父親が斬首にされ、父親の遺言で真鶴は男として生きることを決めて、三司官となります。しかし流刑になります。今度は女として王と恋をし、元

気な男の子を産みました。そして息子と王宮を出て寺で静かに暮らしたというお話です。

私は、真鶴は女であっても男であっても自分の息子にでも偽っていたのがすごいなあと思ったし、頭がよかったんだろうなと思いました。それに真美那さんみたいな優しい人がいたら真鶴も安心して王宮で親友同士でいられたと思うし、私もそういう人がいたらいいなあと思いました。

ぜひ読んでみてください。

耳より情報

10月27日(日)～11月9日(土)は秋の読書週間です

中央公民館図書室では話題の本を入れました。絵本や新書など幅広い分野で、いろいろな受賞作品を置いています。読書の秋にいかがでしょうか？



★ハロウィンのお面を作ろう★

今月の中央公民館図書室のおたのしみかいは「ハロウィンのお面作り」です。世界にたった一つの自分だけのお面を作ってみませんか？

と き 10月19日(土)午前10時～
 ところ 中央公民館図書室

※お詫びと訂正

広報きくち9月号33ページ佐藤百合子さんのお薦め図書「55歳からのハローライフ」の記事に誤りがありました。次のとおり訂正します。大変申し訳ありませんでした。誤 筆力も**去る**ことながら 正 筆力も**さる**ことながら

万句の里俳句会 8月例会

蟬の声精一杯の応援歌 緒方 朋子
 偲ぶとは淋しきことば盆の月 松永 久子
 わたつみの沖つ白波秋立つ日 中路 郁子
 池涼し水神様へ太鼓橋 田中ひさ子
 朝風や声美しき小鳥来る 梅田 昭子

せせらぎ俳句会 8月例会

平和祈る折鶴万羽原爆忌 寺本 和子
 戦闘帽も手套も遺品終戦日 服部 静子
 玉音に茫然となりし小五の夏 藤本アツ子
 平和への願いは永久に終戦日 渡辺 大寿
 胎児と我と玉音聞きし終戦日 村山 数恵

旭志文芸教室俳句会 8月詠草

体形を鏡にうつして夏帽子 中尾ヨシコ
 脳裏には昭和の蛸菊池川 芹川 蓉子
 新しきすだれに来るや青嵐 水谷 ミネ

みどりごのたそがれ泣きや白木権 芹川のり子

肥後狂句水笑会 8月例会

歯切れの悪イ まだ馴れとらん叩き 小川 繁美
 サラ飯 値段で判る夫婦仲 狩野 本六
 シーン 盆が明けたらまた二人 窪田 明德
 さぐり合い 牽制球が一球目 田中 孝幸
 ソーメン流し 早う掬うたもんが勝ち 田中レイ子

肥後狂句水笑会 8月例会

暑かなア ドン腹出して食うスイカ 続 義昭
 回覧板 止まるところは決まってる 宮上 美由
 思い直し 良かばかりの姿婆じゃ 中島 五女
 にゃア ひねくって 大事な松も枯らさした 吉岡 三水
 暑かなア 節電すると身がもたん 平井 江彩

七城短歌会 8月詠草

太陽に背を向けながら咲き揃う時代の流れかヒマワリの花 村上 幾雄

網戸越しにり来る夜風その奥に涼しさ潜みぬ立秋も来て 佐々 重弘
 傍らに語りかけたき夫はなく溜まりし言葉星空に吐く 岩崎 照代

里短歌会 8月詠草

家族らの集ふ八月裏山に蝉も時雨のいよよ猛暑よ 山城 雅子
 いただきし手作り寿司の茗荷の香暑忘るる一人の夕餉 松本 幾代
 草取りを休み憩へる樹の陰におはぐろ蜻蛉ひらひら舞ひ来 林 淑子
 盆あけてやと帰し息の家族家の透き間に吹く風涼し 中村喜美子
 創作の「ジャンヌダルク」の能舞台静寂に響くシテの杖の音 安見 朱實

菊池短歌会 9月詠草

守るべき先師の教へ持たざれば梢を巨るかぜ聴き分けむ 怒留湯健蓉
 杖をつき歩調にも馴れ気がつけばいつ去りにしか柞木の蝉 村上さき江
 曲がりたる腰を叩きて背を伸ばす耐へ来しわれの卒寿のスタイル 山下 菊代



久しぶり今日降る雨に木も花もそして私も背すじが伸びる 余語やす子
 寝返りのはづみに我の手に触れて「こんにちは」と夫は頬笑み 安藤 則子

